

第1回長野県介護現場革新会議意見要旨

事項	意見・要望の要旨	ご意見等に対する県の考え方について
1 事業所におけるICT導入について	ICTを入れるときに、市販のソフトを入れることの怖さは有ると思う。他の事業所の話を聞くと、タブレットを入れたが結局手書きがよい場合もあり、2度も3度も手間がかかっているという所もあるので、そこを掘り下げるような物にさせていただけたらと思う。本当に介護の現場は手作りの部分が多いので、「さあどここのこれ使って」と言っても合わないと思う。各現場にデザインできる方が一人はいると思うので、そういう方を中心にその事業所に合ったものをきちんと作り上げていくとよいと思う。	いただいたご意見を、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」において相談対応等行う際の参考とさせていただきます。
2 相談窓口について	当施設で見守りセンサーを導入したときは、施設が元々入れているシステムの業者と相談して連携できるものを選んだが、他にもっと良いものがあったのかもしれない。選定のところで相談窓口が機能して施設に合ったものを入れられたら良いのではないかとと思う。	機器選定の段階で悩みや相談したいことがあれば、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」に相談していただけるよう、センターを周知してまいります。
3 事業所における介護ロボット導入について/生産性向上の定義について	当施設では、2年くらい前に見守りカメラを導入した。実際に機器を導入したことによって、夜勤の職員の訪室回数がどれくらい減って、その減った分ケアの負担軽減につながったのか、そういったデータの数値化や可視化がほとんどできていない状況なので、今後、分析をして数値化していくことが必要になるのではないかと考えている。生産性の向上という事を現場に投げかけると、「これ以上人が少なくなるのか」というようなイメージを持ってしまっているため、生産性向上の本来の意味合いを含め、数値化できることは数値化しやっていきたいと思っている。	介護ロボット導入後の効果検証は重要と考えます。評価は現場の負担にもなりますので、導入目的に合わせて、調査負担がなるべく減るような調査設計をすることが望ましいとされています。効果検証についても「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」で支援できるようにしてまいります。また、生産性向上の取組の本来の意味合い（ケアの質の確保）については、センターだけでなく県からも発信してまいります。
4 事業所における業務の見える化について/ICT導入について	生産性向上の取組を進めるに当たり、スタッフの行動を10分ごとに書いてもらうなど業務の見える化を行った。それによって休憩時間をきっちり確保できるようになったりだとか、定時の退社ができるようになったりだとか、超過勤務を無くすような成果につながっている。業務の見える化を行う事によって職員の定着率も上がったように思う。きちんと自分の業務が見えるという事で安心感もあるのではないかと。ICTの導入に関しては、記録システムを入れているが、血圧とかデータをグラフにしたりとかという所は、記録システムは非常に長けていて、それをそのままドクターに渡したりだとかということではできているので、そういった時間は大幅に短縮できている。また、当施設の職員の年齢構成が上がってきており、タブレットに慣れる、パソコンに慣れるということに非常に時間を要した。今は慣れてきたが、最初は、新しいものへの拒否というのはあるかと思う。	業務の見える化については、厚生労働省が開発した「業務時間見える化ツール」を周知する等、取組を促してまいります。また、取組の初期段階では、慣れない業務方法に代わることによる戸惑い等があるかと思いますが、事業所全体で一丸となって取組を進めていけるようマネジメントしていくことが必要と考えます。「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」において専門家派遣等を行うことで、支援してまいります。
5 機器導入にあたってのポイントについて/県の補助について	機器導入に当たっては、その過程が大事なのではないかと感じる。現場が必要を認めて現場がどういうものを選ぶのかが重要。ただ上役が「これがよいのではないかと」ということで導入してしまうと現場との乖離が出てきてしまうので、そういった部分を現場と運営する側が話し合うべきであり、チームとして進めていくことが大事である。ICT機器を導入するにしても補助の金額が長野県の場合は少ない。導入する場合、金額もそれ相応になるので、どうしても失敗を恐れたり、導入をためらったりしてしまうのではないかと。特に、規模が小さい施設では金額面から二の足を踏んでしまうのではないかと。	ご意見いただいた機器導入に当たってのポイントについて、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」における支援の際に参考とさせていただきます。また、県の補助事業については、引き続き予算確保に努めてまいります。
6 機器導入にあたってのポイントについて	介護事業所に限らず県内に多い製造業も同じで、現場が必要としたものを入れないと、トップが、「これが良いだろう」というだけだと中々定着しない。時間のない中ではあるが「どんなものを入れたら良いのか」というのを担当の方がよく見極めて、どういったものが良いだろうかとよく検証する場を持って導入するのが一番よいのではないかと。現場が必要なものを見極める、それを決める時に話し合いを行い、職員が使いやすい機器を入れる方向にいけばよいのではないかと。	ご意見いただいた機器導入に当たってのポイントについて、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」における支援の際に参考とさせていただきます。

事項	意見・要望の要旨	ご意見等に対する県の考え方について
7 機器導入にあたってのポイントについて	<p>介護ロボット・ICT、働き方改革等進めるに当たっては、旗を振る人が何のためにこれをやるのか、ビジョンや目的を明確にしておかなければならない。タブレットを導入することが目的になってしまうとか休みを増やせばよいという話になってしまうかもしれないが、決してそうではないんだよということを明確にしておかないとうまく行かないのではないかと感じている。現場の職員にこの生産性向上や働き方改革の取組を通して皆さんのやりたいケアが実践できるようにっていくんだよと伝えていかないとうまく行かないだろうと思う。方法論はいろいろあるが、その明確なビジョンと目的、この施設をどうしていきたいかというところをトップはもちろん現場の職員とよく話し合いをして進めていくことが大切。</p>	<p>ご意見いただいた機器導入に当たってのポイントについて、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」における支援の際に参考とさせていただきます。</p>
8 業務の切り分けについて	<p>生産性向上に関しては、ハローワークでは、いわゆる専門職が担うべきものとそれ以外を切り分けて求人を出すという方法を提案している。今いる労働者の仕事の負担を減らすという意味合いで、例えば入浴介助や食事補助等資格が無くてもできる仕事を切り分けてもらい、切り分けた部分を求人に出すという事をお願いしている。当然時間が短いものになってくるので、そこを短い時間でもいいですよというシニアや子育て中の方等に担っていただく。そういったことを進めているのでぜひ事業所の方もなかなか人が来ないという場合は業務を切り分けて求人を出すといったことを検討していただきたい。こういった求人改革等に関しては行政に相談していただきたい。</p>	<p>生産性向上や人材確保の取組を進めるに当たっては、「業務の切り分け」も重要な手段と認識しています。労働局、ハローワークと連携し、「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」を運営してまいります。</p>
9 次世代への介護の発信について/ICT導入について	<p>長野県の中でぜひ意識したらよいなと思う事は、若い世代からロボットを使ってもらう、どんな事が現在できるかを知ってもらうということ。小学生の時から何か体験のイベントがあったらぜひ親子で参加してもらおうとよい。</p> <p>ICTの導入についてはいろいろな記録のやり方がある。利用者の考えが必ず入ってくるので、できあがったシステムを導入するのは大変かと思う。少し時間と費用はかかるが、手作りのものから入るのもいいかもしれない。本格的なシステムを作るのは少し時間がかかる。現場の方がシステムを使うと今まではこうやっていたが、「もしかしたらこれを入れ替えたり項目を変えたりした方が、柔軟性が出るのではないか」といった意見がいろいろ出るので、システムを作るのに3年かかったという実例もある。これがリアルなタイムラインかと思う。</p> <p>テクノロジー導入について、長野県としてはこういった目標があり、ここ5年10年はこういう風に増えてきた、このエリアで増えてきた、こういったよい事例があったというようなことが視覚的になるとよい。</p>	<p>介護の魅力発信として、小・中学校への訪問講座などにより関心を持ってもらえるよう取り組んでいるところですが、引き続き、小・中学校へのアプローチも含めた施策を推進してまいります。</p> <p>第9期長野県高齢者プランにおいて、「介護ロボット・ICT導入支援法人数」の目標を令和6～8年度累計で120法人としています。目標達成に向けて、引き続き支援をしてまいります。</p> <p>また、好事例については、今年度中にホームページ等で公開できるよう、情報収集等してまいります。</p>
10 生産性向上の進め方全般について	<p>生産性向上の取組は、あくまでも今の介護職員への負担やストレスが軽減されることを大前提にやった方が現場からの信頼は得られるのではないかと思います。恐らくICTや生産性向上に取り組んでいる現場の一部は、これによって人を増員してくれないのではないかと不信感があるとあまり前向きにならないのではないかと思います。職員の負担を軽減することは非常にメリットがあると思うので、その辺をミッションとしてやるのがよいのではないかと。ICT導入が成功している事業所としては、ただ施設長たちは人を減らすためにやっているのではなくて、「あなた達の負担と夜勤のストレスを減らすためにやっている」ということを前提とすることが効果的だと思う。</p> <p>生産性の向上は、無駄な仕事等の業務の見直しをするきっかけになる。年長者がただだと昔のやり方でやっていると若い人たちは帰れないといったこともある。そういったことは生産性向上の取組をきっかけに変えていければよいのではないかと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、生産性向上の取組を進めるうえでの大切な考え方かと思えます。生産性向上の取組を進める本来の目的（ケアの質の確保）については県からも発信してまいります。</p>